

青梅市文化財ニュース

第 1 0 6 号

平成 8 年 8 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

毒と薬は… <青梅市付近で見られる 3 大有毒植物>

『毒草と山菜とをまちがえて死ぬ』、自然食志向、山菜ブームが続いている中で、こんなニュースが毎年、新聞紙上を賑わします。青梅市内にも数多くの有毒植物が自生していますが、それらの中で特に毒性の強いものを 3 つ、ご紹介します。

☆ ハシリドコロ なす科

春の山菜採りのころ、御嶽山や上成木の奥地の沢すじを歩くとフキノトウにも似た山草の新芽に出会います。みずみずしい姿であり、採って食べたくなる色あいでもあります。それがやがて伸びて 5 月の連休のころに毒々しい暗紅色のつり鐘状の花をつけ、晩春には茎葉が枯れ始め、6 月には地上部のすべてが消えてしまいます。根茎がトコロ（やまのいも科）に似ていて間違えて食べると中毒を起こし、走り回ったり、めまい、幻覚、くすくす笑い、酒酔いに似た症状を引き起こして苦しめ、死に至ることからこの名がついたと言われています。しかし、一方では根茎や根からロートエキスをとって胃腸薬に配合したり、鎮痙、鎮痛剤として役立っています。

☆ ヤマトリカブト きんぽうげ科

御嶽山や上成木で見られる深山性の山草で、秋に咲く品格のある淡紫色の花は茶人に珍重されます。全草に猛毒を持っていますが、特に毒性の強い塊根は烏頭（ウズ）附子（ブシ）と呼ばれて鎮痛、強心、興奮、利尿に使われます。しかし、何ぶんにも猛毒植物です。素人は絶対に口にすべきものではありません。毎年 5 月の初めごろに出た新しい葉を山菜と間違えて食べて苦しむ事故が各地で起きています。

☆ ドクウツギ 別名イチロベエゴロシ どくうつぎ科

河岸や山地の崩壊地に自生する落葉低木です。子供たちが川遊びをする真夏にエンドウ豆ぐらいの実が赤色から紫黒色に熟します。川辺にあって、ちょっと食べてみたくなる木の実ですが猛毒があつて幼児では 3 ～ 4 粒で死ぬことがあるそうです。男女関係のもつれから、この実を食べさせられてイチロベエさんが殺されたことからこんな名前もあると言われています。青梅市付近でもかつては御嶽付近の多摩川や成木川の川辺に自生が見られましたが、今は姿を消してしまいましたのでご安心ください。

『毒と薬は紙一重』といわれるように薬と毒とは区別の難しいところです。また、山菜だと思って食べたものがもとで苦しんだり、いのちを落とすこともあります。これから秋口に採れるキノコも含めて危なっかしいものは絶対に口に入れないことです。

・ 国宝『赤糸威鎧』あかいとおどしのよろい（武蔵御嶽神社所蔵）の復原模造が完成しました。
今回、三ヶ年の年月を要しての復元は、原品の緻密な調査を繰り返し、あらゆる点で平安後期の様式を試み、再現することに努めました。

9月20日正午まで青梅市役所玄関ホール、その後、青梅市郷土博物館で展示される予定です。

（文責 中西）